

東京都杉並区立大宮中学校 2年生
総合的な学習の時間「経営者の話を聞く会」
出張授業資料

働くとは何かを考える

－ 9月の職場体験(5日間)の目標設定のために－



2008年6月21日(土)

1時限目 8:50～9:40

2時限目 9:50～10:40

林 明夫

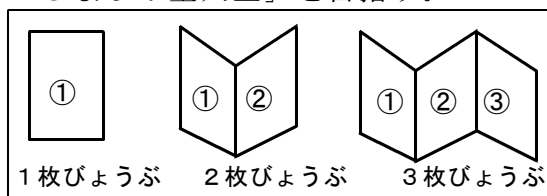
(経済同友会、会員)



1. はじめにー私の仕事・活動ー

- (1)株式会社 開倫塾代表取締役社長
 - ・学校で不足する勉強を補う学習塾(小学1年～高校3年生)
- (2)マニー株式会社 社外取締役(手術用縫合針製造)
 - ・白内障の手術用メス、歯根治療のバーも
- (3)東日本高等学院 評議員
 - ・福島市
- (4)特別養護老人ホーム清明苑 理事
 - ・足利市
- (5)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
 - ・大学院修士課程の学生が対象
- (6)開倫ユネスコ協会 会長
 - ・「人間の安全保障(Human Security ヒューマン・セキュリティ)」の推進
- (7)CRT 栃木放送「開倫塾の時間」担当
 - ・効果の上がる「勉強の仕方」を毎週1回放送、21年目
- (8)読売新聞 栃木版 とちぎ寸言「コラム」執筆
 - ・今月からスタート
- (9)栃木県社会教育委員
- (10)経済同友会、幹事

* 「びょうぶ型人生」を目指す。



私は「3枚びょうぶ型」の人生を目指す。(人生には3つのびょうぶがある)

- ①「経営者」を目指す。
- ②「経済界から発言する人」を目指す。
- ③「社会教育(社会の中で教育)する人」を目指す。

2. 仕事とは何かー何のためにこの仕事はあるのか、仕事の「社会的使命(ミッション)」を自覚しながら働こう、活動しようー

- (1)すべての仕事には、お客様のお役に立つという「社会的使命(mission, ミッション)」がある。
- (2)お役に立つとは、お客様の問題解決になること。
 - * 何がお客様の問題なのかを、お客様の立場で考えなければならない。
- (3)お客様の問題解決にならなければ、仕事をしたことにならない。「社会的使命(ミッション)」を果たしたことにならない。
 - * 結果を出さなければ、仕事をしたことにならない。常に結果が求められる。
- (4)お客様のお役に立つこととは、社会のお役に立つこと。仕事を通して、社会に参加し「社

会的使命(ミッション)」を果たすことができる。

(5) お客様の問題は何かを知るためには、お客様の立場でものを考えること。世の中の動きをよく知った上で、お客様の問題の解決策を考えること。

* 新聞を読んで考えること。TV やラジオ、雑誌でニュースを見・聞き・考えることは大事。

(6) ただし、仕事には競争相手がいる。いつもお客様の本当の問題は何かを考え続けないと、お客様はいなくなる。

* 競争相手は日本だけではなく、世界中にいる。また、新しい競争相手はどんどん出てくる。

(7) 価格が高い、不便、内容がよくわからないと、お客様のお役には立たない。

* いくらお客様の役に立っても・・・。

(8) 法律や道徳に反した方法で仕事をすることは許されない。だから、何が法律、道徳かを学び続ける必要がある。知らないことは許されない。「法律の不知は許さず」(法律のことわざ) - 「ルールの中でのプレー」が、仕事でも求められる -

3. 何のために働くのかーディーセント・ワーク(Decent Work ちゃんとした仕事)に就こうー

(1) 生活できるだけの収入を得るため。

(2) 自己実現するため。

4. 仕事をする上で必要な能力とは

(1) お客様のお役に立つ、問題解決のためになる仕事を自由競争の中でするためには、高いスキル(仕事能力)が必要。

(2) 高いスキルを身に付けるには、小学校や中学校、高校、大学などでの教育を十分受けることが大事。

① 小学校や中学校で勉強したことは、すべて仕事に役立つ。

② 教科の勉強も役に立つが、教科以外の学校での活動もすべて役に立つ。だから、学校での活動にしっかり取り組んでほしい。

③ 遅刻、欠席、早退、忘れ物、おしゃべり、ケータイ、e-mail が多いと、仕事にならない。

④ 人の話をよく聞き、メモを取り続ける。取ったメモは何回も読み返し、身に付ける。

* 仕事能力は、「メモ」で身に付ける。

(3) 「英語」と「コンピュータ」、「得意分野(専門領域)」は、どんな仕事でも必要不可欠。英語はしっかり勉強を。得意科目はとことん伸ばそう。

(4) 社会に出てからが本当の勉強。仕事の上でも、新しいことをドンドン学び身に付けて、スキルを向上させ続けなければならない。「スキルアップ」

* 社会に出てからが本当の勉強。とりあえず 35 歳までは毎日勉強。

* 35 歳過ぎてからも勉強を積み重ねると、よい「仕事・活動」ができる。

* 70 歳すぎたら、「一人で生きる」ための勉強もスタートすること。人生は長い。

105 歳すぎまで元気ががんばろう

(5) 健康(心の健康と身体の健康)を自分自身で管理できること。健康管理も、自己責任・自助努力。自分ですべてやる。

*口の中に入れる物(食べ物)を大切に考えよう。

(6)「躰(しつけ)」が身に付いていること。

①「美しい立居振舞い」(服装第一)

②「敬語表現を含む言葉遣い」(「です、ます調」で話せること)

5. 効率の上がる勉強方法とは「学習の3段階理論」

(1)「理解」(「うんなるほど」とよくわかること)

①学校などの授業での「理解」

(ア)「遅刻」「欠席」「早退」「忘れ物」「居眠り」「おしゃべり」があると、「理解」ができない。著しく妨げられる。

(イ)手を机の上に置き、先生の目を見て真剣に話を聴くこと。

(ウ)大切なことは、ノートにどンドンメモを取ること。

*授業終了後、あとで勉強しやすいように「ノート整理」をすること。

②自分の勉強での「理解」

(ア)勉強するもの(テキスト)を決め、一語、一語どのような意味か考えながら、「うんなるほど」と「腑(ふ)に落ちるまで」よく読むこと。

(イ)意味のわからない語句は、辞書や事典、参考書でよくわかるまで調べる。調べたことは、ノートに「メモ」をしておくこと。

*「予習」とは、「自分で勉強」し、十分「理解」できないことをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの。

(2)「定着」(練習、練習、また練習ですべて暗記)

①一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないでスラスラ正確に言えること。

そのためには、「教科書」「ノート」を何十回も「音読練習」を。

*英単語は、その英単語が用いられている文章ごとそっくり覚えること。(単語だけで覚えるよりも、使い方がよくわかり身に付く)

②何も見ないでスラスラ言えるようになったことを、何も見ないで正確に書けるまでにすること。そのためには、何十回も「書き取り練習」を。

*「漢字書き取り」を、すべての教科で行うこと。(書き順にも気をつけよう)

③一度「うなるほど」と解き方を十分「理解」した問題は、問題を見た瞬間に条件反射でパツ、パツと正解が出るようにすること。そのためには、同じ問題を何回も(最低 6 回)「問題練習」を。

*「予習」をして十分「理解」できた内容は、「練習、練習、また練習」で「定着」させること、すべて「暗記」すること。「自分で勉強」した内容で「理解」できたことは、「三大練習」ですべて「定着」させること。

(3) 「応用」

①定期試験で 100 点が取れること、国家試験や資格試験、採用試験、入学試験で合格点が取れること。

(ア)過去の問題や予想問題を何回分かやること。

(イ)間違えた問題は、なぜ間違ったかを自分で研究。もう一度勉強し直すこと。

②社会に出て役立てること。

(ア)そのためには、学校で用いた教科書やノートを大切に保存すること。

(イ)学校を卒業してからも、折に触れ「教科書」や「ノート」を読み続けること。ノートに必要なことを付け加えること。

6. 私の好きなことば

(1)「一生勉強、一生青春」(足利市在住だった 相田みつを先生)

(2)「捨てなければ得られない」(京都一燈園 石川洋先生)

*「会った人は皆友達」

「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」

(3)「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組もう)

(足利高校のマラソン大会の合言葉)

(4)「ブルドック魂」(くいついたら離すな)

(足利市立山辺中学校のクラス担任 岡田忠治先生)

(5)「練習で泣いて試合で笑え」「自他共栄」(自分も他人も共に栄えよう)

(足利市立山辺中学校柔道部監督 椎名弘先生)

(6)「注意一秒、ケガ一生」(慶應義塾大学法学部法律学科 宮沢浩一教授)

*「法律を勉強した人は、常に最悪のことを予想しながら行動すること」(慶大、峯村光郎教授)

(7)「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)

(8)「Living Longer, Working Longer」(OECD フォーラム 2008 /パリで)

(より長く生きよう、より長く働こう・活動しよう)

(9)「If you can dream, you can do it!」(もしあなたが夢を見ることができれば、あなたはそれをする事ができる)(アメリカヒューストン、人類を月に立たせた宇宙技術者の合言葉)

(10)「独立自尊」(人も国も一人で立てるようになってはじめて尊い)

(慶應義塾創始者、福沢諭吉先生)

7. おわりにーおすすめしたいことー

(1) 「書き抜き読書ノート」

①本を読んで気に入ったことばに出会ったら、書き抜いておく。

*夏休みには少し厚目の本も読もう

「ハリー・ポッター」を読書のきっかけにするのもよ
考えい。
「夏目漱石」の作品は、何回読んでも興味深い。
「古典」や「自叙伝」も面白い。

②折に触れ、何回も声を出して読む。

(2)新聞を1日に1時間以上一面からなめるように読み、考えよう!! 記事は切り抜き、ノートに貼っておく。早目に「英検2級」を取り、「英字新聞」も毎日読んでみよう。

(3)よいところ探しを

①家族のよいところ、友人のよいところ、大宮中のよいところ、杉並区のよいところ、東京のよいところ、日本のよいところ、アジアのよいところ、そして自分のよいところを、一つでもよいから搜してみよう。

*他人の悪口は言わない。他人をからかわない。(悪口を言われても、からかわれても、あまり気にしない。ただし、自分のためにせっかく言ってくれたアドバイスには耳を傾ける。)

②自分のよいところをどんどん伸ばそう(改めるところは少しずつ改めながら)。「よく生きよう」。

(4)「健康第一」(「早寝」「早起き」「朝ごはん」を)。

(5)メールやコンピュータゲームはやりすぎないこと。テレビやビデオを見すぎないこと。

以上